

運動障害リハビリテーション学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 鈴木伸弥

【概要】

運動障害の病態は非常に幅が広く、またそのアプローチ方法も多様である。しかし、科学的根拠に基づくものは意外と少ないのが現状である。本演習では論文レビューによりエビデンスを検証していくと同時に、実際の治療手技をバイオメカニクス、神経生理、運動生理学的な変化としてとらえ、その作用を客観的に表す手法を学ぶ。

【学修目標】

科学的及び学際的視点からの臨床課題解決能力の更なる涵養のために、文献検索及び考察を演習する。

1. 論文で用いられているデータ計測・解析方法について説明できる。
2. 筋電計や脳波計などの計測機器を適切に取り扱うことができる。
3. 中枢末梢神経疾患や運動器障害に起因する運動の問題に関する論文を検索しその概要を述べ、自分の研究テーマに応用できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	文献レビュー	運動障害に対するリハビリテーションに関連した文献についてレビューする。	吉田晋 鈴木伸弥
6) 10	神経生理演習	脳波や筋電図を使用した簡単な実験を行い、データの解析、解釈を行う。	吉田晋 鈴木伸弥
11) 15	バイオメカニクス演習	床反力、3次元動作解析などを用いて簡単な実験を行い、データの解析、解釈を行う。	武田涼子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業、演習への取り組み、ディスカッション内容50%、課題レポート50%により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること。

予習では、「授業内容および学習課題」について、関連参考図書を読んでおくこと(100分)。

行動目標に記載された事項の準備

復習では、質疑応答の内容および担当教員の助言を整理すること(60分)。

【実務経験】

吉田晋、武田涼子、鈴木伸弥(理学療法士)